

平成25年度第2回独立行政法人造幣局契約監視委員会議事概要

開催日時及び場所 平成25年10月7日(月) 13時30分～15時 造幣局会議室

委員 松川 正毅(大阪大学大学院高等司法研究科 教授) (委員長)

相原 隆(関西学院大学法学部 教授)

谷口勢津夫(大阪大学大学院高等司法研究科 科長)

和田 馨(独立行政法人造幣局 監事)

中津 祐嗣(独立行政法人造幣局 監事)

審議対象 契約状況の点検・見直し

- ・平成25年度第1四半期における「競争性のない随意契約」 7件
- ・平成25年度第1四半期における「一者応札・一者応募契約」 6件
- 計13件
- ・競争性のない随意契約の新規案件 なし
- ・2か年度連続して一者応札・応募となった案件 1件
- ・2か年度連続して一者応札・応募となった案件で平成25年度においても競争入札等を行う予定があるもの 4件

委員からの意見・質問、それに対する回答等

下記のとおり

委員会による意見の具申又は勧告の内容

特になし

意見・質問	回答
<p>『平成25年度第1四半期における競争性のない随意契約の点検・見直し』について</p> <p>(「造幣局IN広島」における会場設営及び撤収作業について)</p> <p>・会場借上げ先から業者の指定があったので、その業者と随意契約を行ったとのことであるが、そもそも会場自体の選定はどのようにして行うものか。</p>	<p>・面積、集客力及び日程の観点から会場を選定するが、多くの場合百貨店となる。百貨店に対しては、催事の趣旨を説明し、交渉のうえ、無償で会場の提供を受けている。なお、無償ということなので、審議の対象から外れることから委員会には報告していない。</p>

『平成25年度第1四半期における一者応札・応募契約の点検・見直し』について

(貨幣極印下地について)

・現在のように、特殊鋼材の加工品を購入する場合と、今後、一般鋼材を購入して、内製または外注で加工する場合のコスト比較はどうか。

・貨幣製造について欠かすことのできない原材料に関しては、契約の形態如何ばかりでなく、その安定供給の確保ということも重要な視点と考える。その点を委員会の意見として明記してもらいたい。

『2か年度連続して一者応札・応募となった案件で平成25年度においても競争入札等を行う予定があるもの』について

(業者聴き取りの反復強化について)

・一者応札・応募となっている契約について、他の業者への聴き取りは毎回行っているのか。

(契約内容の総合的評価、妥当性審議について)

・一者応札・応募が続いている契約に関して、どうしても他に業者がないからというだけでは、妥当性を評価して審査したとは言えない。

例えば、単価が据置きであるとか、安くなっているとか、少なくとも著しい変動がないというようなことを補完的に説明のうえ、総合的に妥当性の判断ができるよう努めてもらいたい。

・一般的に言って、材料費は一般鋼材の方が特殊鋼材よりも安いと思われるが、加工コストの比較については、精査できていない。今後、具体的に検討を進め、総合的に最も合理的な方策を考えていくこととしたい。

・ご指摘のとおりとしたい。

・必ずしもそうではなく、ある程度の間隔を置いて状況の変化がありそうな場合などには、再度聴くというようにしている。今後は、当方の真剣さを伝える意味でも、毎回聴き取りを行うように努めたい。

・ご指摘を踏まえ、今後、できるだけ工夫して報告するよう努めたい。